

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-11228

(P2000-11228A)

(43)公開日 平成12年1月14日(2000.1.14)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコ-ト*(参考)
G 0 7 D 1/04		G 0 7 D 1/04	Z 3 E 0 0 1
G 0 6 F 19/00		G 0 7 B 1/00	E 5 B 0 5 5
G 0 7 B 1/00		G 0 7 F 17/42	
// G 0 7 F 17/42		G 0 6 F 15/30	Z

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平10-176269

(22)出願日 平成10年6月23日(1998.6.23)

(71)出願人 000000295
沖電気工業株式会社
東京都港区虎ノ門1丁目7番12号
(71)出願人 000140535
株式会社沖ソフトウェア関西
大阪府大阪市北区中之島4丁目3番28号
(72)発明者 川越 正憲
大阪府大阪市北区中之島4丁目3番28号
株式会社沖ソフトウェア関西内
(74)代理人 100061273
弁理士 佐々木 宗治 (外3名)

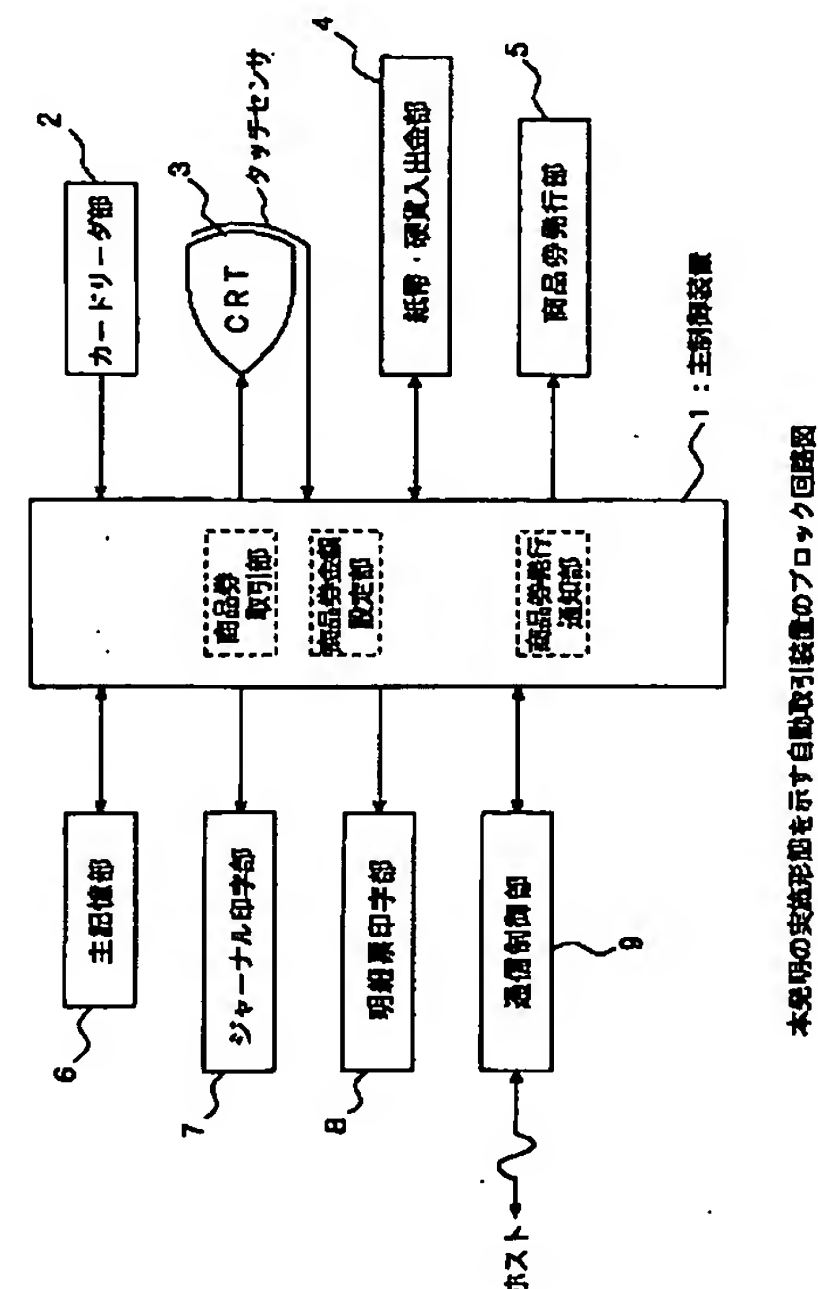
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 自動取引装置

(57)【要約】

【課題】 購入場所が限られているデパート発行の買物券や、各クレジット会社発行のギフト券などを容易に購入できる装置を提供する。

【解決手段】 主制御装置1は、各種の金融取引項目と商品券取引項目(商品券購入)をタッチセンサ付CRT3に表示しており、商品券購入がタッチセンサ付CRT3を通じて選択されたときは各種の商品券を表示し、何れか一つの商品券が選択されたときはその商品券の金額毎の購入枚数をタッチセンサ付CRT3に表示し、選択された商品券の購入枚数が設定されたときは、購入枚数に基づき支払金額を演算してタッチセンサ付CRT3に表示し、かつ、現金又はカードによる支払の選択の旨を表示し、支払金額が満たされているときは、商品券発行部5を起動して、選択された商品券を購入枚数分発行させる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 各種の金融取引項目を表示部に表示し、選択された取引項目に応じて取引業務を前記表示部を通して誘導する自動取引装置において、前記表示部に商品券取引項目を表示し、該商品券取引項目が選択されたときは各種の商品券を表示する商品券取引部と、何れか一つの商品券が選択されたときはその商品券の購入枚数を前記表示部に表示し、選択された商品券の購入枚数が設定されたときは、購入枚数に基づき支払金額を演算して前記表示部に表示し、かつ、支払方法の選択の旨を表示する商品券金額設定部と、支払金額が満たされているとき、選択された商品券及び枚数を通知する商品券発行通知部と、該商品券発行通知部の通知に基づいて商品券を発行する商品券発行部とを備えたことを特徴とする自動取引装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、金融機関等で使用される自動取引装置に係わり、さらに詳しくは、各種商品券の販売機能を備えた自動取引装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】商品券の種類として、買物券、酒・ビール券、お米券、ギフト券などがある。これらの商品券を購入する場合、例えば、買物券についてはデパートで、酒・ビール券については酒店で、お米券は米穀店で、ギフト券は各クレジット会社で、という発行元で購入するのが一般的であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】商品券のうち酒・ビール券やお米券については、店が各地域に点在しているため容易に購入することができるが、デパート発行の買物券や、各クレジット会社発行のギフト券などは購入する場所が限られていて少ないため、身近なものでなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明に係る自動取引装置は、各種の金融取引項目を表示部に表示し、選択された取引項目に応じて取引業務を前記表示部を通して誘導する自動取引装置において、前記表示部に商品券取引項目を表示し、該商品券取引項目が選択されたときは各種の商品券を表示する商品券取引部と、何れか一つの商品券が選択されたときはその商品券の購入枚数を前記表示部に表示し、選択された商品券の購入枚数が設定されたときは、購入枚数に基づき支払金額を演算して前記表示部に表示し、かつ、支払方法の選択の旨を表示する商品券金額設定部と、支払金額が満たされているとき、選択された商品券及び枚数を通知する商品券発行通知部と、

該商品券発行通知部の通知に基づいて商品券を発行する商品券発行部とを備えたものである。

【0005】本発明においては、表示部に表示した商品券取引項目が選択されると各種の商品券を表示し、この中から何れか一つの商品券が選択されたときはその商品券の購入枚数を表示部に表示し、選択された商品券の購入枚数が設定されたときは、購入枚数に基づき支払金額を演算して表示部に表示し、かつ、支払方法の選択の旨を表示する。選択された支払方法により金額が満たされていると判断したときは、選択された商品券を顧客が要求した枚数分発行する。

【0006】

【発明の実施の形態】図 1 は本発明の実施形態を示す自動取引装置のブロック回路図、図 2 及び図 3 は商品券取引時の画面のイメージ図である。図において、1 は本発明の商品券取引部、商品券金額設定部及び商品券発行通知部を備えた主制御装置で、各種の金融取引項目と本実施形態に係る商品券取引項目（商品券購入）をタッチセンサ付 CRT 3 に表示しており（図 2（a）参照）、商品券購入がタッチセンサ付 CRT 3 を通じて選択されたときは各種の商品券を表示し（同図（b）参照）、何れか一つの商品券が選択されたときはその商品券の金額毎の購入枚数をタッチセンサ付 CRT 3 に表示し（図 3（a）参照）、選択された商品券の購入枚数が設定されたときは、購入枚数に基づき支払金額を演算してタッチセンサ付 CRT 3 に表示し、かつ、現金又はカードによる支払の選択の旨を表示し（同図（b）参照）、支払金額が満たされているときは、後述の商品券発行部を起動して、選択された商品券を購入枚数分発行させる。また、各種の金融取引項目の中から何れか一つの取引項目がタッチセンサ付 CRT 3 を通じて選択されたときは、その取引項目に応じた画像を表示して取引業務を案内するようになっている。この通常の金融取引の機能及び商品券取引の機能は、予めソフトウェア化されて主記憶部 6 に格納されている。

【0007】2 は例えばキャッシュカードに記録された暗証番号、銀行支店名、残高などを読み取るためのカードリーダ部、4 は紙幣や硬貨を入出するための紙幣・硬貨入出金部、5 は商品券発行部で、図 2（b）の画面に示す各種の商品券を収納する商品券収納部（図示せず）を有し、主制御装置 1 の制御に基づいて、該当する商品券を必要枚数取り出して発行する。7 はジャーナル印字部、8 は明細票印字部で、主制御装置 1 の制御に基づいて取引後の経過等を印字するものである。9 は主制御装置 1 と上位のホストコンピュータとの間で行われる各種データの送受信を制御する通信制御部である。

【0008】前記のように構成された自動取引装置において、商品券取引時の動作を説明する。図 4 は商品券取引時における動作を示すフローチャートである。顧客が図 2（a）に示す画像の中から「商品券購入」を指でタ

タッチして選択すると（S1）、「○△□百貨店商品券」、「○×デパート買物券」、「ABC信販ギフトカード」、「ZZZギフトカード」及び「全国共通デパート券」をタッチセンサ付CRT3に表示して、何れかの商品券が選択されたかどうかを判定する（S2、S3）。商品券が選択されないときはこの画像を維持し、商品券が選択されたときは、図3（a）に示すように商品券の金額毎の購入枚数の入力旨をタッチセンサ付CRT3に表示する（S4）。そして、確認キーがタッチされたかどうかを判定し（S5）、確認キーがタッチされなかったときは取消キーがタッチされたかどうかを判定する（S13）。取消キーがタッチされたときは初期の画像、即ち図2（a）に示す画像を表示し（S14）、確認キーがタッチされたときは、テンキーの入力による金額毎の購入枚数から支払金額を演算して、図3（b）に示すようにその演算結果の金額をタッチセンサ付CRT3に表示すると共に、現金又はカードによる支払の選択の旨を表示する（S6、S7）。

【0009】そして、現金キーがタッチされたかどうかを判定し（S8）、現金キーがタッチされなかったときはカードキーがタッチされたかどうかを判定し（S15）、カードキーがタッチされなかったときは取消キーがタッチされたかどうかを判定する（S19）。取消キーのタッチを確認したときは前述したように初期の画像を表示するが（S20）、取消キーがタッチされなかったときは、再び現金キーのタッチの有無を判定する（S8）。現金キーのタッチを確認したときは、紙幣・硬貨入出金部4に取り込まれる金額が支払金額を満たしているかどうかを判定し（S9）、入金支払金額を満たしていないときはタッチセンサ付CRT3に金額不足を表示し、その後に初期の画像を表示する（S11、S12）。また、入金された現金が支払金額を満たしているときは、商品券発行部5を起動して、選択された商品券を購入枚数分発行させる（S10）。

【0010】S15においてカードキーのタッチを確認したときは、キャッシュカードの暗証番号、銀行支店名、残高などをカードリーダ部2を介して読み取り（S16）、キャッシュカードに対する口座に支払金額を満たす残高があるかどうかを判定する（S17）。この判定

は、読み込んだ各データを通信制御部9を介してホストコンピュータに送信して得られる情報に基づくものであり、口座に支払金額を満たす残高がないときは、前述したようにタッチセンサ付CRT3に金額不足を表示し、その後に初期の画像を表示する（S11、S12）。一方、口座に支払金額を満たす残高があるときはその口座から引き落として（S18）、前記の如く商品券を発行させるよう商品券発行部5を制御する（S10）。

【0011】このように、商品券の販売機能を端末の自動取引装置に備えるようにしたので、購入場所が限られていたデパート発行の買物券や、各クレジット会社発行のギフト券等を容易に購入できるという効果がある。また、商品券を現金の他にキャッシュカードでも購入できるので、使い勝手がよいという効果がある。

【0012】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、金融機関の本店や支店に設置される自動取引装置に各種の商品券を取り引きできる機能を付加したので、特に購入場所が限られてるデパート発行の買物券や、各クレジット会社発行のギフト券等を容易に購入できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態を示す自動取引装置のブロック回路図である。

【図2】商品券取引時の画面のイメージ図である。

【図3】図2に続く商品券取引時の画面のイメージ図である。

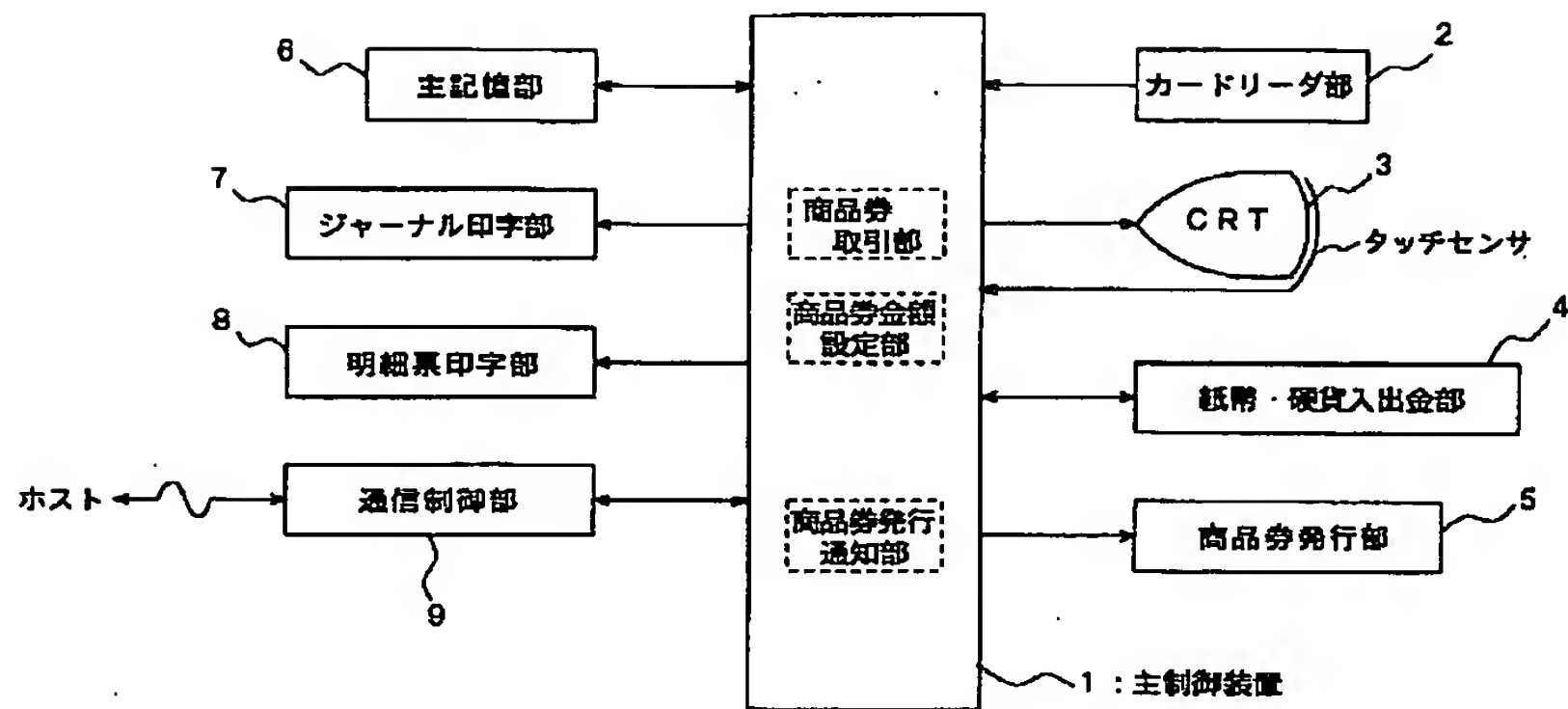
【図4】商品券取引時の動作を示すフローチャートである。

【図5】図4に続く商品券取引時の動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

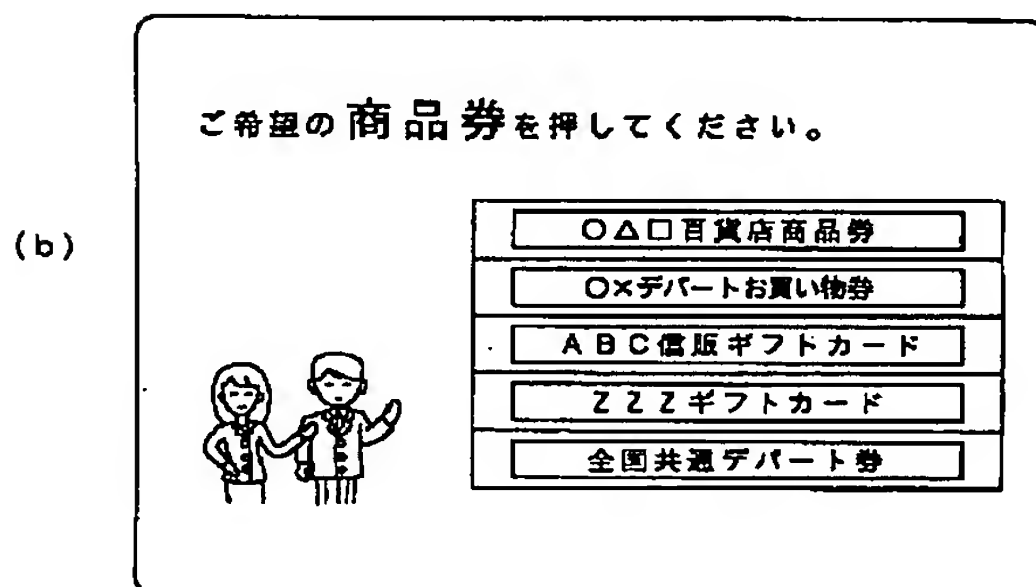
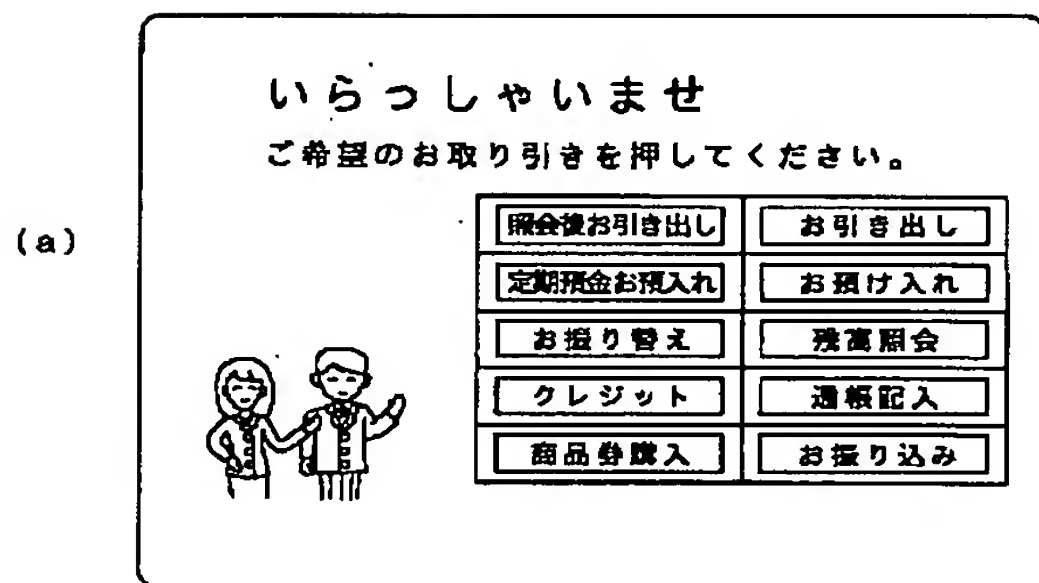
- 1 主制御装置
- 2 カードリーダ部
- 3 タッチセンサ付CRT
- 4 紙幣・硬貨入出金部
- 5 商品券発行部
- 6 主記憶部

【図 1】



本発明の実施形態を示す自動取引装置のブロック回路図

【図 2】



商品券取引時の画面のイメージ図

【図 3】

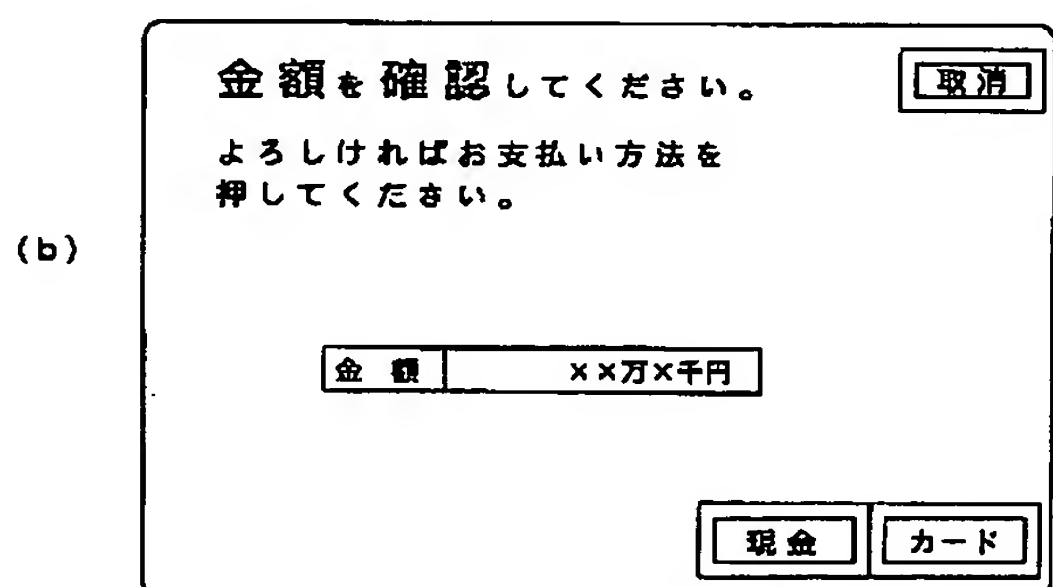
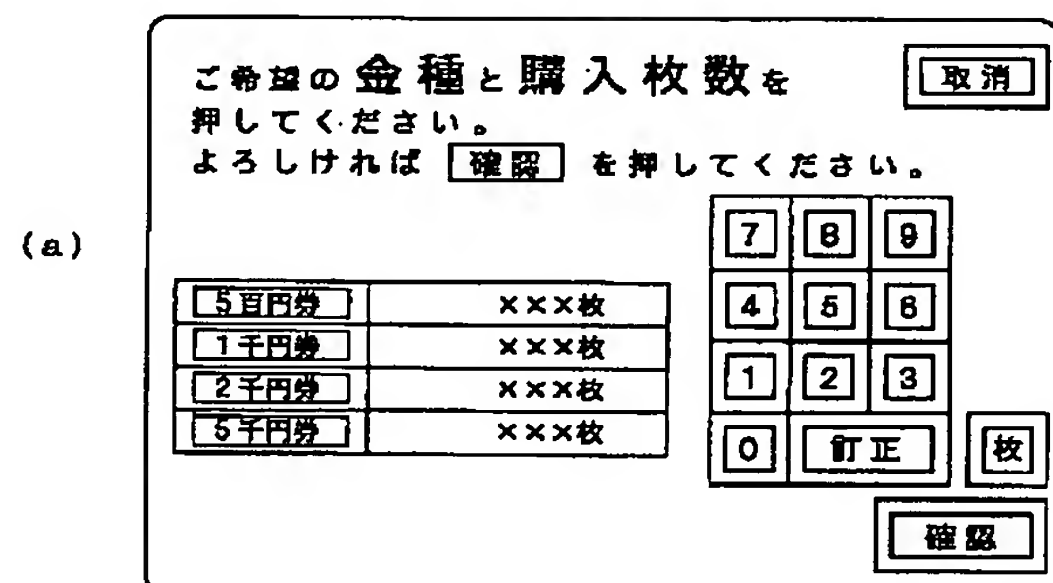
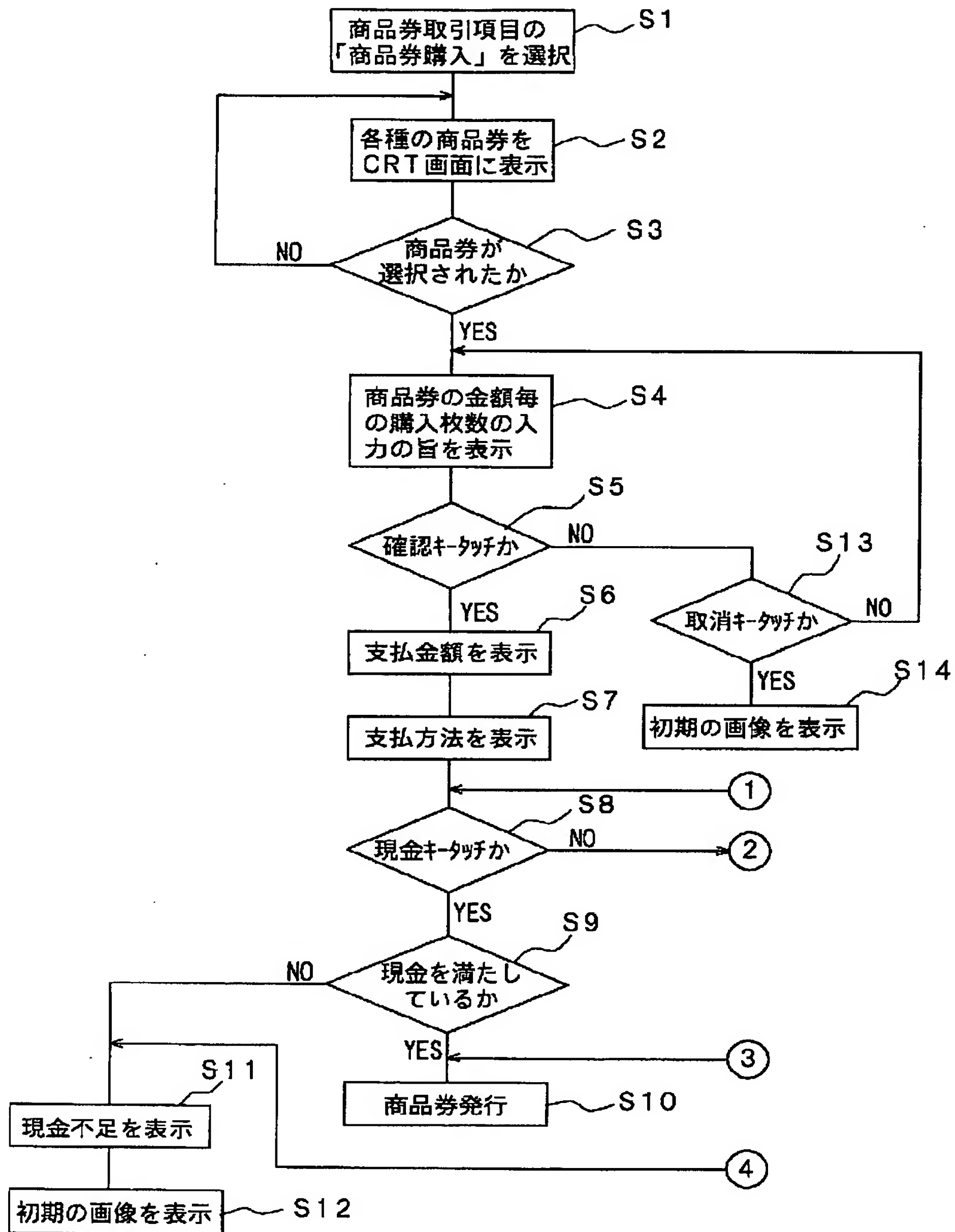


図 2 に続く画面のイメージ図

【図 4】



商品券取引時の動作を示すフローチャート

【図 5】

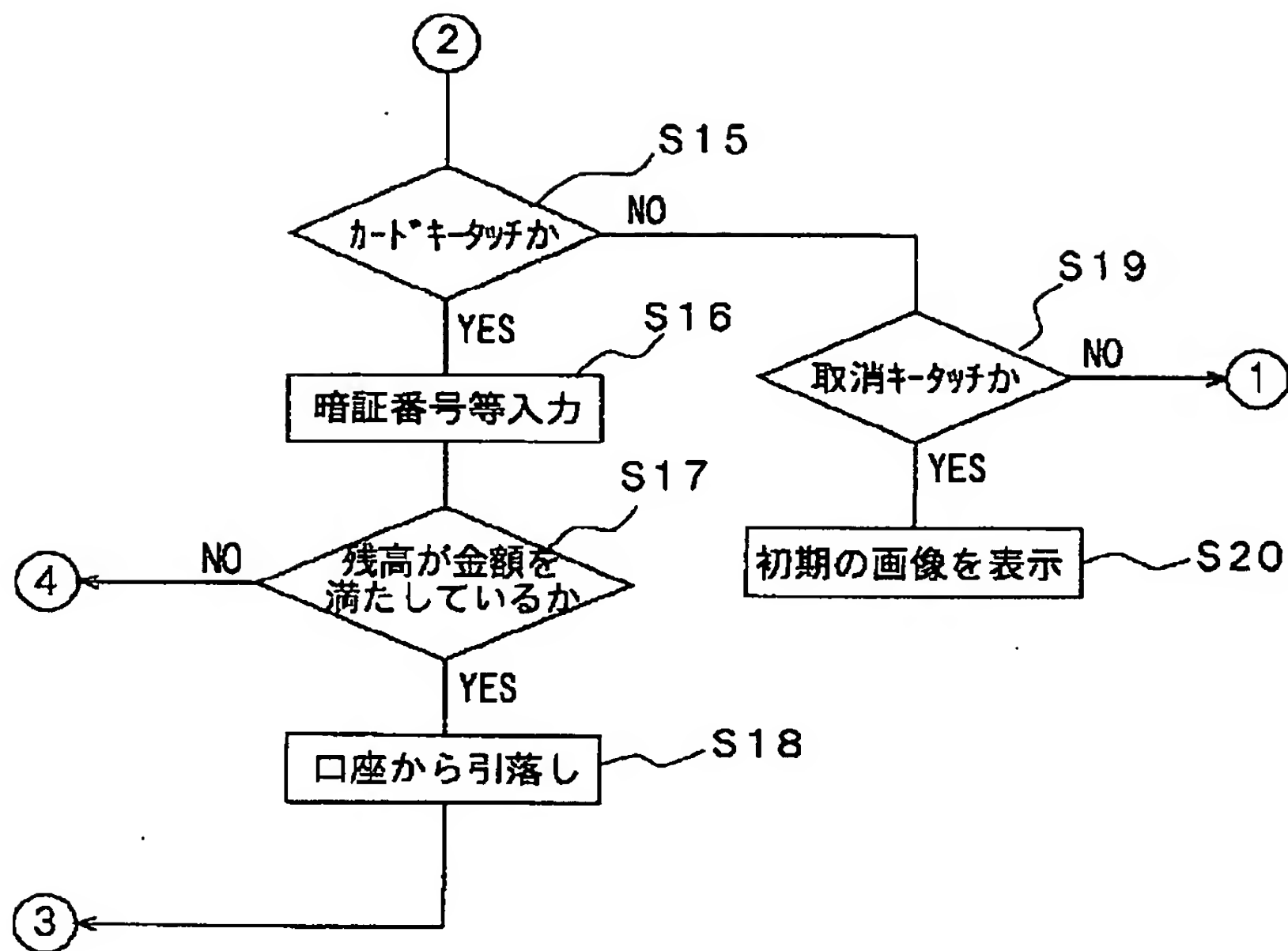


図 4 に続くフローチャート

フロントページの続き

(72) 発明者 大木 真由美
東京都港区虎ノ門 1 丁目 7 番 12 号 沖電気
工業株式会社内

F ターム (参考) 3E001 AB03 BA10 CA07 CA10 FA10
5B055 BB03 CC13 LL02 LL11 MM01